説明書№F632 号

ラクボスティック取扱説明書

はじめに

ラクボスティックは、ガイドラインの延線用として製品化したものです。特に、屋根の勾配に合うようにスティックに撓り（しなり）を持たせると共に、操作性を重要視し軽量化を図っています。したがって、スティックを構成するそれぞれの管は薄く、各節は摩擦抵抗で伸長を保つ機構（テレスコピック）にしています。
以上の構造を御理解頂くと共に、正しくご使用頂くため下記の項目について遵守ください。

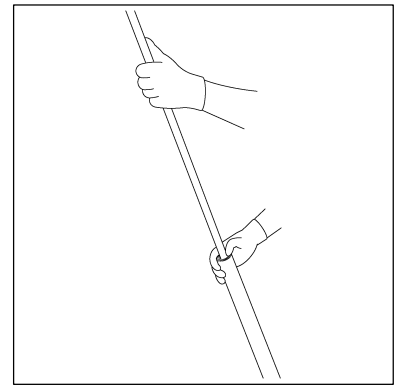
スティックの使用手順

伸長する場合

スティック伸長時は先端の管（内側の細い管）から１本ずつ順番に各節が完全に伸長しきるまで伸ばしてください。
各節が固定されたことを確認してから、次の管を伸長してください。
スティックの３～５本目の管が家の軒を通過したら、軒に立て掛けるようにスティックを傾け、スティックの角度を屋根の勾配に合わせて、伸長してください。

図１　伸長時のスティックの持ち方

ポイント

図１に示すように、片方の手で伸長し、もう片方の手は伸長させるラクボスティックの節をガイドさせてください。
（管を一本ずつ正確に伸長させるため。）

※スティックの各管がスムーズに伸長できない場合は無理に引き出さないでください。スティックの破損の原因になります。スムーズに伸長できない場合は点検手順にしたがって点検をお願い致します。異常がある場合は使用しないでください。

収納する場合

スティックの収納時は外側の管（太い管）から１本ずつ順番に管が完全に入り込むまで押し込んでください。（図２）親指の爪先などで収納させる管の先端部を押し込むと容易に収納できます。
管が完全に収納されたことを確認してから、次の管を収納してください。

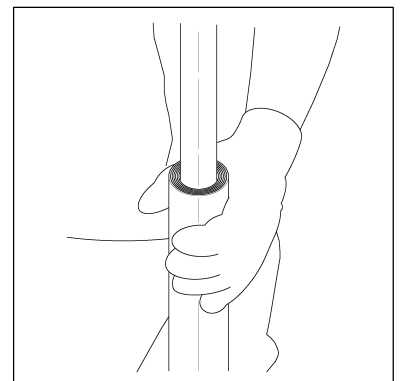



図２　管を順番に収納している状態

収納時は図３のように各管が完全に収納できたことを確認してください。管が完全に収納できていない場合は、管をもう一度伸長し、収納をやり直してください。
（※）内側の細い管の先端部分（約５㎝）は出た状態になります。

（※）

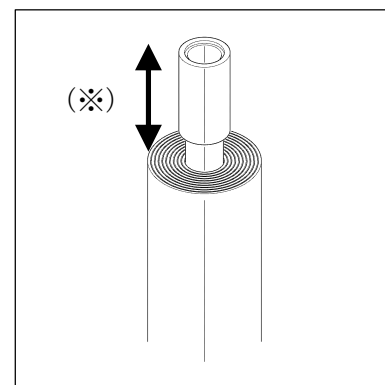



図３　管が完全に収納された状態

ポイント

・管の収納が不完全な場合、伸長時に管が引き出せなくなることがあります。必ず各管を完全に収納してください。

・スティックに砂などの異物や水分などが付着した状態で収納した場合、スティックの伸縮ができなくなり、故障の原因になります。砂などの異物や水分などが付着した場合は完全に取り除いてから収納してください。

使用上の注意事項（必ずお守りください）

⚠警告　重大な事故につながるおそれがありますので、次の事項は厳守してください。

電線などの付近の既設物には十分注意して作業をおこなってください。

ラクボスティックを伸長させた状態で、取り回し時に電線やアンテナなどに引っ掛けると事故の原因になります。

⚠注意　安全にお使いいただくため、次の事項は守ってください。

踏みつけたり、重い物を置いたりしないでください。

踏みつけたり、重い物を置いたりすると破損する場合があります。

伸長時は先端の管（細い管）から順番に伸長してください。また、収納時は外側の管（太い管）から順番に収納してください。

伸長時は先端の管から順番に伸長し、収納時は外側の管から順番に収納しないと管が引っ掛り、伸縮できなくなる場合があります。

砂などの異物が付着した状態で収納しないでください。

砂などの異物が付着した状態で収納するとスティックが伸縮できなくなり、故障の原因になります。砂などの異物が付着した場合は完全に取り除いてから伸縮してください。

スティックに深い傷が入らないように使用してください。

伸縮時に家屋の鋭角部や地面などでスティックに深い傷が入らないようにしてください。スティックの摩擦状態が変わり、スムーズに伸縮できなくなるおそれがあります。

スティックを無理に“あおる”操作はしないでください。

スティックを無理に“あおる”と折れるおそれがあります。

スティックを屋根に勢いよくぶつけたり、転倒させたりしないでください。

スティックは全伸長時に屋根の勾配に合うように弓状に撓る（しなる）構造にしています。しかし、圧縮荷重（管を押さえる荷重や衝撃荷重）に対する強度はありません。

スティックの管をスムーズに伸長できない場合は無理に引き出さないでください。

スティックを無理に引き出すと節（嵌合部）に割れが発生し、折れの原因になります。スムーズに伸長できない場合は分解・組立手順に従い、清掃および点検をしてください。

保管や移動時にスティックの先端を押さないようにしてください。

スティック先端が管内に埋没するおそれがありますので、保管や移動時に先端を押さないようにしてください。また、保管時は収納袋に入れ、直射日光の当たらない場所・高温多湿にならない場所で保管してください。

スティックに水が入らないようにしてください。（濡らさないでください。）

雨天などにより水がスティックに入りこむと節（嵌合部）の摩擦状態が変わり、スムーズに伸縮できなくなるおそれがあります。水が入り込んだ場合は下記の手順で乾燥させてから使用してください。

スティックが水に濡れた場合の対処方法

底部のキャップを取外し、管を外側より１本ずつ取り出し、乾いたウエスなどで水分をきれいに拭き取ってください。完全に乾燥させてから、内側の細い管より順次管を挿入して最後にキャップを取り付けてください。（分解・組立手順はＰ４の点検手順を参照してください。）

※ドライヤーなどで乾かすと管が変形する場合がありますので使用しないでください。

アスファルトなどの高温になる場所に置かないでください。

高温になる場所に長時間置かれた場合、変形するおそれがあります。

屋外に保管しないでください。

低温時屋外で保管された場合、スティックが凍りつくおそれがあります。

スティックが凍りついた場合、凍結時の膨張により、亀裂が発生しているおそれがあります。氷が溶け、水分が乾燥してもすぐに使用せず、必ず広い場所で伸縮させ、亀裂の発生の有無を確認してください。亀裂や異常がある場合は使用しないでください。

伸縮できなくなった場合の点検手順

下記の状態や症状の場合は分解・組立手順に従い、点検してください。

・砂や異物などが付着した場合
・先端が管内に埋没した場合
・スムーズに伸縮できなくなった場合
・定期清掃および点検

スティックの分解手順

① 底部のキャップと先端のキャップを外す。
② 外側の管から１本ずつ取り出す。
③ 取出した管を順番に並べる。
④ 管の外側および内側の砂や異物などをウエスなどで取り除き、清掃および点検する。

スティックの組立手順

① 先端の管を次の管（外側）に挿入していく。
② 管の底の高さを揃える。
③ 底部のキャップと先端のキャップを取付ける。
④ 組立後、伸縮できるか確認する。

※底部および先端のキャップが外れやすい場合は外れ防止としてビニールテープを巻き付けてください。

スティックの点検について

使用前には次の項目について点検し、該当する場合は部品の修理または交換を行ってからご使用ください。なお、部品の交換が必要な場合はミドリ安全㈱もしくは藤井電工(株)へお申しつけください。

点検項目	処置を必要とする状態	処置			処置の理由
		修理	交換	廃却	
伸縮の可否	スムーズに伸縮できないもの	○	○		作動不良
割れの有無	割れているもの		○		強度が不足 作動不良
傷の有無	深い傷があるもの		○		作動不良
節の固定の可否	管を固定できないもの		○		機能が不良 強度が不足
キャップの有無 （先端部・底部）	キャップが無いもの	○	○		作動不良
パイロットラインの 通過性の可否	スムーズに通過しないもの	○	○		作動不良

お客様相談窓口

この説明書の内容につきおわかりになりにくいときや、製品の取扱いについてご不明な点がありましたら、お買い上げの販売店、または下記のご相談窓口にお問い合わせください。

販売元：ミドリ安全株式会社　〒150-8455　東京都渋谷区広尾5丁目4番3号
TEL（03）3442-8294　FAX（03）5475-2572

製造元：藤井電工株式会社　〒679-0295　兵庫県加東市上滝野1573番地2
TEL（0795）48-3360　FAX（0795）48-3409